

# 高津支部研究だより

2024年 第1号

## 第1回高津支部授業研究会

11月20日(水)に高津小学校にて第1回高津支部授業研究会が行われました。ご多用の中、多くの方々にご参加していただきました。

研究協議では、多くの方から意見や感想をいただき、活発な意見交流ができました。話題になったことや意見・感想をまとめました。

### ≪6年生 ボール運動 「ゴール型バスケットボール」

～タイムアウトで即改善！よい状態でシュートを打とう！！～

授業者 山田 貴一先生

#### □教師のねらいと実態

- ・今年度はAARサイクル(Anticipation 見通し・予測 Action 活動 Reflection 振り返り)をより活性化して目指す子供の姿にせまるために、R(振り返り)を重点に置いて活動を考えた。その中でも、ゲームの合間や活動の最後など、形式的な振り返りではなく、子供たちが必要だと感じたタイミングに『即時的な振り返り(タイムアウト)』ができるようにした。子供たちにとって必要感のある振り返りだからこそ活発な話し合いになり、状況の改善や作戦の再確認など、めあて学習の充実に向かっていくのではないかと考えた。

#### 研究協議

○感想や意見 ☆質問 ◎質問に対する回答

○声をかけ合い、手振り身振りでアドバイスをしている姿が見られた。

○運動が苦手な子もパスをもらったら迷わずシュートに向かっていた。

☆タイムアウトを取り入れた経緯は？

◎昨年度のバスケットボールでは、ゲームに出ていない子がすぐに

チームに伝える時間がなかった。その手立てとして、即時的に振り返り、即修正していく時間を設定した。

☆タイムアウトで話し合いが成立していたのか？

◎課題を見付けることはできていたが、すぐにゲームの中で修正することは難しいチームもあった。高津支部が目指したタイムアウトは作戦をじっくりと練り直すのではなく、チームの状況や方向性を確認する程度で考えていた。タイムアウトがあることで、落ち着いてゲームができると実感している子供がいた。はじめは一方的なやりとりが多かったので、話し合いの視点や行い方を指導した。2～3時間目で教師主導のタイムアウトを取り、その後は子供主体で取っていった。前単元のソフトバレーボールでもタイムアウトを実践し、有効的であると子供は感じている様子だった。

☆タイムアウトを自分の授業でも取り入れてみたいが活動量を考えると難しかったり、運動が苦手な子ほど躊躇してしまったりするのではないかな？



◎前時までには、8割の子供が自らタイムアウトを取っていた。負けている時、同点の時、勝っている時の取り方について指導した。今回はゲームに出ていない人数が2人だったので、取りやすかったのではないかな。

○数的優位のプラスワンがあったことで、ロングパス作戦を多く使っているチームがあり、他の作戦を選びにくかったのではないかな。単元前半はプラスワンにして後半からは人数を同数にすると、さらにチームにあった作戦を選ぶことができたのではないかな。

○プラスワンにするメリットが感じられなかった。得点が入った場合はセンターからパスしてはじめていたが、ゴール下からドリブルスタートというルールも取り入れると、プラスワンがより活用しやすくなるのでは。

○チームからの声かけで「目線」という言葉が聞こえた。守備や気持ちの面の言葉も聞こえた。仲間からのフィードバックを得ることで、個人のめあて達成、改善する機会にもなったのではないかな。

☆学習テーマ「よい状態でシュートを打つためにはどうしたらよいのだろう」ではなく、「得点をとるために、よい状態をつくる」が正しいのではないかな？

☆ボール運動の楽しさは勝ち負け、その思いが弱かったのではないかな？

◎子供は勝つことや得点を取ることを目的としているが、技能や勝ち負けに価値を置くと運動が苦手な子供が楽しめない。勝ち負けがはっきりする、「ゴールの枠内にシュートを入れる」は学習指導要領体育編の中学校3年で出てくる。中学校との系統性を考えた時に、今回はよい状態でシュートが打てればよいという考えである。

☆授業の終末の振り返りで GIGA 端末を使っていたが、全体の共有がなく教師対子供のやり取りになっていたのではないかな？

◎子供同士の共有の時間は、GIGA 端末を打つ前のチーム内での振り返りという考え。子供の振り返りを全体に共有するのは時間的に授業内では難しかった。



**指導講評 講師：中野 正明 先生（川崎市立小学校体育研究会監事、川崎市立日吉小学校 校長）**

- 授業者の表情と声がよかった。指示が明確で分かりやすかった。
- 学習カードを GIGA 端末か紙で行うかは、それぞれのよさがあるので使い分けるとよい。
- バスケットボールは監督やコーチがどんどん指示を出すスポーツでゲーム展開が速いので、教師の言葉かけがさらにあるとよい。チームの作戦や個人のめあてに対する言葉かけがあると自分たちで考えるようになる。教師がタイムアウトを取った時も含めてどう関わっていくのかが大切。
- 棒立ちの姿勢の子供が多かった。構えるという指導をしていく。棒立ちだとキャッチする時にバランスを崩しやすい。
- シュートの時に腕がしっかりと伸びていた。技能が高かった。
- 体育は、体力の向上が目的。今回は運動量がしっかりと確保されていた。
- 学習指導要領体育編の「学びに向かう力、人間性等」で「勝敗を受け入れる」が出てくる。ある程度の勝敗は必要である。勝ちたいから作戦を立てるということもその一つ。
- タイムアウトがあったことで、その場で改善が素早くできた。その場の話し合いだけでなく、そのシーンをコートで動いて再現して振り返る方法もあるとよかった。
- 当初の作戦がチームに合っていないと感じていたチームもあった。合意形成を図ってよいことを見出しよく学習ができていた。

担当：下作延小学校 山石 綾花 文責：下作延小学校 山崎 希比古